

文化情報

会報 Vol.404
令和7年7月1日発行
SINCE 1961
一般財団法人
北海道文化財保護協会

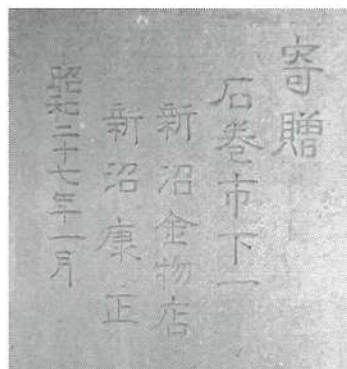
〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル9階 電話・FAX:011-271-4220

Website: <https://hokkaido-bunkazai.jp>

E-mail: bunho@abelia.ocn.ne.jp



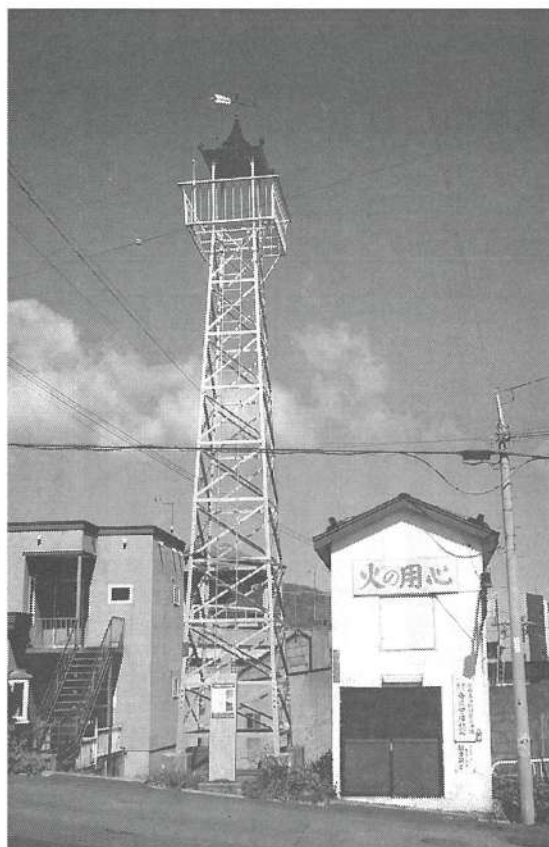
昭和初期の火の見櫓 (ガラス乾板より復原)



半鐘に刻まれた寄贈者



櫓に残る半鐘



小樽住ノ江火の見櫓 (2024年)

地域の宝

小樽住ノ江火の見櫓

小樽住ノ江火の見櫓は、1927年に同町会事務所が消防組番屋として建設された地元の中嶋鉄工所によって建てられました。火災発見のために活躍しましたが、1986年坂の上側に35m移転、その後、所有者が同町会から小樽市消防団第六分団に移り、2021年に役目を終え、解体の危機が訪れました。これからは住民自ら育てる地域の宝をめざそうと、翌年3月、地元有志3人で「小樽住ノ江火の見櫓をまもる会」を設立しました。会の発足には、塩見寛氏(火の見櫓からまちづくりを考える会代表 当会顧問)にご尽力いただきました。

住ノ江火の見櫓のすばらしさ

火の見櫓の高さは約14m。四本の躯体はL型鋼の柱と斜材で強固に組み立てられ、リベットで接続されています。当時の大工の親方により造られ、威風堂々と小樽の街を見守っています。風見の尖塔をもつ美しい曲線の屋根の四隅には、水除けの渦巻き飾りがあしらわれています。銘板や半鐘も現存し、この度、半鐘の寄贈者である石巻市在存の新沼康正氏のご子息が来樽予定で、寄贈の経緯を伺う事が楽しみです。

また、火の見櫓の創建時である昭和初期のガラス乾板も発見され、デジタル化して写真を復原しました。

修復工事、登録有形文化財へ

末永く保存するための修復方法(耐震調査と鉄骨腐食部の交換)の検討を終え、2022年6月、櫓は当会に無償譲渡されました。工事の費用は、公益信託の基金と小樽市民や企業に寄付金を募り、2023年9月に完成しました。現在は2027年の建設百年に向けて、国の登録有形文化財の申請準備を進めています。(小樽住ノ江火の見櫓をまもる会代表 早川陽子)